

緑の地球ネットワーク イベント記録 (2022年度)

2023年	
3月22日	GEN なんでも勉強会オンライン 失われゆく草原の生き物たち ～これまでとこれから:自然史と生態学の窓から～
3月21日	GEN 自然と親しむ会 高槻市番田水路でバードウォッチング
2月25日	GEN なんでも勉強会オンライン 森との新しい距離はどんな感じ? 日本について考える:ヨーロッパ発の大放談
1月19日	GEN なんでも勉強会オンライン 木質バイオマスことはじめ
2022年	
12月15日	GEN なんでも勉強会オンライン 美山の里山暮らしから見える景色 - 京都美山かやぶき屋根の下で - GEN 自然と親しむ会 - 芦生の森合宿報告 -
11月29日	GEN なんでも勉強会オンライン 「i-Tree」を用いた市民参加型緑地評価システム
10月 22~23日	GEN 自然と親しむ会 芦生の森合宿
10月13日	GEN なんでも勉強会オンライン ゆりりん愛護会と地域活動
10月8日	GEN 自然と親しむ会 秋のきのこを探しに行こう
9月29日	GEN なんでも勉強会オンライン 里山の保全活動 - 吹田市紫金山公園と東お多福山草原の保全 -
9月3~4日	東北海岸林再生活動ツアー
8月27日	GEN なんでも勉強会オンライン 京大芦生研究林における二ホンジカによる生態系改変と保全・回復への試み
7月6日	GEN なんでも勉強会オンライン GEN の活動と山の応答 - 中国黄土高原を見て -
6月11日	GEN 第28回総会記念講演 地域の多様性から考えるSDGs・ポストSDGs時代の環境共生
5月31日	GEN なんでも勉強会オンライン 和泉葛城山のブナ林を知っていますか? - 希少な太平洋型ブナ林の生態と保護増殖 -
4月6日	GEN なんでも勉強会オンライン 復興の眺めと痛み～東日本大震災から11年

GEN なんでも勉強会オンライン

失われゆく草原の生き物たち

～これまでとこれから:自然史と生態学の窓から～

～ 開催要項 ～

草原の生態と人間生活のかかわりについて学んでみませんか。

大窪久美子さんは信州大学農学部緑地生態学研究室で希少植物の保全や外来植物への対応などを研究しておられます。GENの緑化協力地・中国黄土高原にも足を運んでいただきました。

今回、日本と黄土高原の草原の植物をご紹介します。身近な雑草から学べる自然史の成り立ちなどをお話しいたします。草原の生態と人間生活のかかわりについて学ぶ機会です。

日時	2023年3月22日(水) 19時～20時30分ごろ
場所	ウェブ会議システム Zoom
講師	大窪久美子さん(信州大学農学部教授)
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	27名
------	-----



日本の草原は、おおざっぱにいうとこの100年で10分の1ほどに減ってしまったそうです。もともと日本の草原の多くは人の影響下に成立する半自然草原で、かつては飼料や堆肥、屋根葺き材などの供給源として保たれていたものが、それらの需要がなくなり、また自然環境の変化によって減少してきました。草原を効率的に維持するための火入れの技術も数か所でしか残っていません。

それにともない、草原で生きていたたくさんの生き物も危機にさらされています。日本は生物多様性ホットスポット、地球規模で生物多様性が高く、かつ破壊が進んでいる34の地域のうちのひとつです。たとえば、日本産野生植物の約4分の1が絶滅危惧と判定されているのです。

霧ヶ峰の観光資源でもあるニッコウキスゲがシカの食害にあっていたり、多くの草原が外来植物の侵入に脅かされていたりするなか、草原の重要性がもっと理解され、保全に真剣に取り組まなければならないと感じました。

GEN 自然と親しむ会 高槻市番田水路でバードウォッチング

～ 開催要項 ～

高槻市南部にある番田水路を歩きながら、バードウォッチングを楽しみませんか。番田水路沿いの遊歩道から間近で水鳥などを観察することができます。今回は高槻市立自然博物館の主任学芸員で、GEN の中国蔚県での野鳥調査に専門家として参加された高田みちよさんにご案内いただきます。バードウォッチングが初めての方もお気軽にご参加ください。

日時	2023年3月21日（火・祝）10時～14時ごろ
場所	高槻市番田水路
集合	10時20分に高槻市営バス「唐崎橋」停留所
講師	高田みちよさん（高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）主任学芸員）
参加費	700円（保険料含む）
定員	20名
持ちもの	歩きやすい服装・靴、弁当、飲みもの、敷物、あれば双眼鏡、野鳥図鑑
備考	少雨決行 解散場所：西面大橋バス停（阪急茨木市駅行き） コロナ対策の上おこないますが、状況により変更・中止の可能性あります。

～ 開催記録 ～

参加人数	13名
------	-----



今回歩いた番田水路沿いの遊歩道は散歩する人も多く、水路に浮かぶカモたちも人慣れしていて、近い距離からじっくり観察することができました。鳥の種類を覚えるのもいいけれど、鳥が何をしているのか観察すると楽しいですよ、という講師の高田さんのアドバイスにそって、ひんぱんに足を止めてあらためてじっくり鳥を見れば、その羽の美しさや羽繕いをするときの体の柔らかさなど、驚く点多々ありました。アオサギはクチバシや脚がピンク色の婚姻色になっていました。今回は猛禽を見ませんでした。カモの羽が散らばった場所があり、オオタカは羽をむしって食べるので、オオタカが安心して食事をできるところが木の上にあるのでしようとのことでした。ヒドリガモやオオバンなどに加えてヨシガモやタヒバリ、キセキレイなど29種、市街地での短時間の観察ではまずまずの種類の鳥を見ることができました。

GEN なんでも勉強会オンライン 森との新しい距離はどんな感じ？ 日本について考える：ヨーロッパ発の大放談

～ 開催要項 ～

昨年2月のGENなんでも勉強会オンライン「ヨーロッパ 人の暮らしと森」でヨーロッパ在住の山元さん、藤沼さんに暮らしの中での市民と森との距離感について語っていただきました。今回は、ヨーロッパの暮らしと森との距離感と、日本のそれをくらべてみようと思います。

日時	2023年2月25日（土）15時～17時
場所	ウェブ会議システム Zoom
講師	山元周吾さん（合同会社喜代七副代表／ミュンヘン工科大学博士課程） 藤沼潤一さん（GEN世話人、タルトゥ大学研究員） コーディネーター：長坂健司さん（GEN事務局）
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	23名
------	-----



昨年、「またやりましょう」とお約束した続編を実現できました。独日2拠点生活の山元さんと、エストニア在住の藤沼さんに話題提供をしていただき、それを足がかりに参加者が森について語るという、とても興味深い勉強会になりました。徒歩や自転車で気軽に行ける距離に森があるヨーロッパと、森といえば山で、アクセスが悪い日本では同等に語れないし、そのほかにも所有や管理の違いなどで日本の森はちよっと遠い？

参加者それぞれが森への思いを語られました。子どものころ森は当たり前であって、好悪

の対象ではなかったとか、大規模な集合住宅では緑地が義務付けられていて、身近に緑があるとか、江戸時代の新田開発で林もいっしょに作られ、現在もいくらか残っているなど、いろいろな森や緑とのかかわりを聞くことができました。山でなくても生活圏にあるまとまった緑を、みなさん大切にされているんだなと感じました。

GEN なんでも勉強会オンライン 木質バイオマスことはじめ

～ 開催要項 ～

森林はさまざまなモノやサービスを私たちに提供しています。石油、天然ガスの普及に伴い、燃料源としての木材利用はいったん減少しましたが、再生可能なエネルギー源として、最近はまだ利用が増えています。しかし一方で、木質バイオマスがほんとうに再生可能エネルギーとみなしているのかという疑問の声もあがっています。森林のこれからを考えていくうえで無視できない「木質バイオマス」について、いちから学んでみませんか？

日時	2023年1月19日（木）19時～20時30分
場所	ウェブ会議システム Zoom
講師	泊みゆきさん（NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク理事長）
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	21名
------	-----



木質バイオマスと聞くと発電と思いましたが、利用範囲はもっと広く、発電に使うのは望ましくないということで目からウロコが落ちました。バイオマスとは狭義では燃料に利用する生物資源ですが、広義では生物資源全体を差します。木質バイオマスも、燃料（熱源、エネルギー源）利用より先に、薬用、食用、建材、繊維、紙など価値の高いもの、さらに飼料や肥料で利用しつつして、燃料やエネルギー源にするのは最後にすべき。海外から燃料を輸入して木質バイオマス発電をするのは愚の骨頂というわけです。また、再生可能性やカーボンニュートラルという点においても問題がある木質バイオマスは、やはりエネルギー源としてよりも別の利用法を優先するべきでしょう。最近では、木造のビルも可能になってきています。日本の森林蓄積＝森林資源は増え続けていて、ごく一部しか利用できていないということなので、木質バイオマスの良い利用法を見つけなければと思いました。

GEN なんでも勉強会オンライン

美山の里山暮らしから見える景色-京都美山かやぶき屋根の下で- GEN 自然と親しむ会-芦生の森合宿報告-

～ 開催要項 ～

京都美山に移り住んで 30 年。「過疎化がすすむ美山で人の暮らしがそこにあり続けることが里山を維持すること」とおっしゃる、美山を熟知された高御堂さんに、美しい美山の風景や植物たちの写真をふんだんにつかってお話しいたします。また、10月22、23日におこなった芦生の森合宿参加者による報告もあります。

日時	2022年12月15日(木) 19時～20時30分
場所	ウェブ会議システム Zoom
講師	高御堂麻理子さん(芦生もりびと協会認定ガイド、美山町自然文化村ネイチャーガイド)
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	22名
------	-----



スライドの写真がどれも本当に美しくそれだけでも一見の価値があるのに、さらに「美山の研究をするために大学院にいった」ほど美山を愛し、熟知しておられる高御堂さんのお話がとても素敵で、楽しい時間でした。「熊がついている」かやぶき屋根の家で暮らし、アザミの種をついばむカワラヒワに癒され、絶滅危惧の植物に出会い、美山を訪れる人たちをもてなすさまざまな工夫を考え、日々丁寧に暮らす。若い人たちがかやぶき屋根を手入れする会社をつくり、美山以外でも活躍しているというのも素晴らしいお話でした。

また違う季節に再訪し、今度は美山のかやぶきの里を満喫したいと思います。

GEN なんでも勉強会オンライン

「i-Tree」を用いた市民参加型緑地評価システム

～ 開催要項 ～

街路樹や公園などの都市緑地や、森林の価値を数値化できるシステムが、i-Tree です。炭素貯蓄量、大気の浄化、冷暖房の削減効果などがわかり、樹木の価値を値段であらわすこともでき、またシミュレーションもできるこのシステムはすでに欧米ではさかんに使われ、日本でも利用がはじまっています。この i-Tree について、実際に千葉大学で樹木測定をおこなって炭素貯蓄量などを調べた加藤顕先生に話していただきます。

日時	2022年11月29日(火) 19時～20時30分
場所	ウェブ会議システム Zoom
講師	加藤顕さん(千葉大学大学院園芸学研究院准教授)
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	17名
------	-----

1本の樹の胸高直径と種類がわかれば、その木の働き、価値が数字でわかる。Googleの画像でエリアを指定して必要な情報を入力しても同じことができる。アメリカ農務省が提供する画期的なシステムで、世界各地で利用され、日本でも利用がはじまっています。市民参加でニューヨークの樹木地図ができたというお話には驚きました。一方でまだ問題もあり、「使いながら練り上げていく」段階です。そんな事情も、

率直にお話しいただきました。

技術的な話がつづくと思っただろうからと途中でアメリカ留学時の写真もご披露いただくサービスぶり。

学生さんが参加して千葉大学でも計測をおこなったそうですが、中国黄土高原で GEN が協力して植えたマツやアンズの木も i-Tree で解析してみたら、どんな数字が出てくるでしょう。楽しみです。



GEN 自然と親しむ会

芦生の森合宿

～ 開催要項 ～

「植物学を学ぶものは一度は芦生演習林を見るべし」といわれ、100年の歴史、4200haの面積を有し、植物はもちろん、多様な生物が生育・生息している京大芦生研究林を訪問します。

日程	2022年10月22日(土) 9時 JR 園部駅集合、23日(日) 16時園部駅解散
場所	京大芦生研究林、芦生山の家泊(京都府南丹市美山町)
内容	1日目: 芦生の森ガイドツアー参加、芦生山の家宿泊 2日目: 石原林長の案内で芦生の森見学、軽作業
参加費	21,800円(宿泊費、食費、保険料を含む。園部駅までの交通費は含まない)
定員	14名

～ 開催記録 ～

参加人数	12名
------	-----



8月のなんでも勉強会オンラインで勉強した京大芦生研究林に実際に足を運んで見学しました。紅葉には一足早く、ごく一部の木が色づき始めたぐらいでしたが、合宿の翌日から気温が下がる予報となっており紅葉も進むと思われます。標高差300mをバスで登り、歩いたのは比較的平坦なコースでしたが、川の渡渉が何度かあり、スリルを楽しみました。勉強会でもうかかったシカの食害を実際に見て、

その厳しさを実感しました。鹿柵で保護された場所には多様性が回復してきていますが(写真左下)、雪が多い年は2mも積もる芦生では冬は破損を避けるために柵を降ろす必要があります、その上げ下ろしも大変な作業です。写真右上はクマはぎの被害にあったスギ。こうなってしまうと材としての値打ちは大幅ダウン。ほかにも、42種の植物(コケを含む)がその樹上に着生しているという小世界のような大カツラやトチの木平など、芦生の森を満喫した、久々のリアルイベントでした。

GEN なんでも勉強会オンライン ゆりりん愛護会と地域活動

～ 開催要項 ～

GEN は名取市のゆりりん愛護会に協力して東日本大震災の津波被害を受けた海岸林の再生活動をおこなっています。

2015 年から東北を訪問し、植樹祭に参加しています。

コロナの感染拡大で今年も現地を訪れることができませんでしたが、今回オンラインでゆりりん愛護会会長の大橋信彦さんに活動の報告と、地域での取り組みについてお話しいただきます。

日時	2022 年 10 月 13 日 (木) 19 時～20 時 30 分
場所	ウェブ会議システム Zoom
講師	大橋信彦さん (ゆりりん愛護会会長・GEN 会員)
参加費	無料
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	12 名
------	------



GEN とゆりりん愛護会のご縁は、GEN 顧問だった故小川眞先生が白砂青松再生の会で全国の海岸林の再生に取り組まれていたことがきっかけです。東日本大震災で大きな被害を出した東北の海岸林再生に GEN も協力して、2015 年からはツアーも実施してきましたが、コロナ禍で 3 年訪問できていません。この勉強会では、ゆりりん愛護会の、海岸林再生だけでなく絶滅危惧種をふくむ海浜植物の保護やスナガニの調査など多岐にわたる活動をご紹介します。また、豊かな自然と深く結びついた昔の生活のお話もうかがいました。

再生する自然との共存を目指し、エネルギーに活動を続けておられるゆりりん愛護会のように刺激を受け、また、来年こそは再訪したいと思いを新たにしました。

GEN 自然と親しむ会 秋のきのこを探しに行こう

～ 開催要項 ～

北雲雀きずきの森は面積約 28ha、宝塚市と川西市の市境に位置し、変化に富む地形のなかにさまざまな生物が棲んでいる森です。この森で見られる秋のキノコをいっしょに観察しませんか。樹木医の栗栖敏浩さんに解説していただきますので初めての方もぜひご参加ください。

日時	2022 年 10 月 8 日（土）10 時～14 時ごろ
場所	北雲雀きずきの森
集合	10 時に阪急／能勢電「川西能勢口」駅（駅からバスで移動します）
講師	栗栖敏浩さん（樹木医 （株）松本微生物研究所）
参加費	700 円（保険料含む。別途バス代（片道 220 円）がかかります）
定員	15 名
持ちもの	歩きやすい服装・靴、弁当、飲みもの、敷物、雨具、あればきのこ図鑑
備考	少雨決行 コロナ対策の上おこないますが、状況により変更・中止の可能性あります。

～ 開催記録 ～

参加人数	19 名
------	------



いつも好評のきのこ観察会。炭焼きと交互に 1 年置きにおこなうことになっていますが、前回 2020 年は悪天候で中止だったため、2018 年以来となります。今回の会場北雲雀きずきの森では初めての開催です。下見の時全然きのこがなくて心配しましたが、ちょうど前日に恵みの雨。午前の部は「もうお昼だけどまだまだ見つかる」盛況でした。しょっぱなに珍しい「クチベニタケ」（写真右下）が見つかりました。てっぺんがおちょぼ口のように赤くなっていて、それを口紅にたとえた名前です。カサが袋のようになっていて、押すと口のところから胞子が煙のように出てきました。そのほか、名前通りたくさん群がって生えるイヌセンボンタケ、「絶対食べないでください」といわれた猛毒のフクロツルタケなどいろいろなきのこを見ることができました。

GEN なんでも勉強会オンライン

里山の保全活動 -吹田市紫金山公園と東お多福山草原の保全-

～ 開催要項 ～

吹田市にある紫金山公園は春にはコバノミツバツツジが美しい花を咲かせ、市民による里山保全活動がおこなわれています。

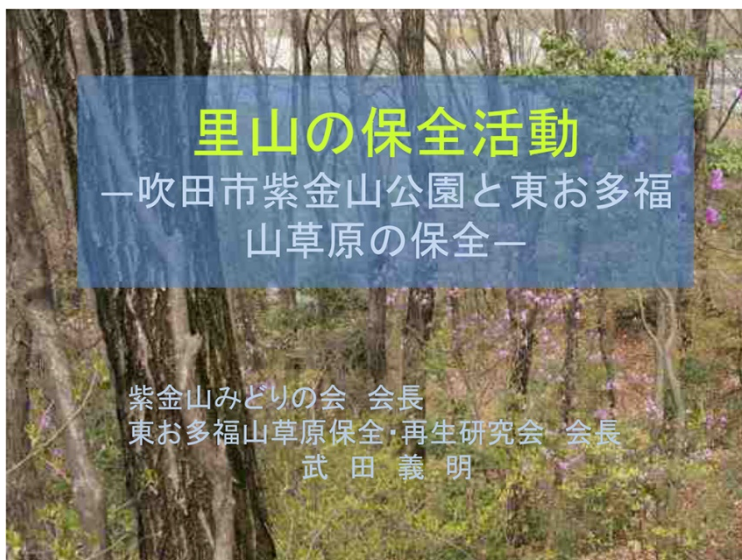
また、六甲の東お多福山はススキが広がる草原でしたが、現在はネザサに覆われているため、市民によるかつての多様な生き物が見られる草原を取り戻す活動をおこなっています。

植物生態学がご専門でこれらの活動に長年関わっておられる武田義明さんにお話をうかがいます。

日時	2022年9月29日（木）19時～20時30分
場所	ウェブ会議システム Zoom
講師	武田義明さん（神戸大学名誉教授／紫金山みどりの会会長／東お多福山草原保全・再生研究会会長）
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	16名
------	-----



ように広がって行ってほしいものだと思います。

吹田市紫金山公園は、バブル末期に田んぼや池をつぶして都市型の総合公園にする計画がたてられたものの、その後市民の意見を取り入れて里山里地景観の保全、生物多様性の保全、コバノミツバツツジの保全を目的に市民団体が管理する公園となりました。東お多福山草原は、急激に減少する草原を保全するため、ネザサの刈り取りなどの作業を市民がコツコツと続けています。コロナ禍や高齢化などの困難はどこも同じですが、生物多様性の保全などの成果をあげているこれらの活動が今後も続いていく

東北海岸林再生活動ツアー

～ 開催要項 ～

宮城県名取市のゆりりん愛護会は東日本大震災で甚大な被害を受けた海岸林を再生しようとマツを植え育てる活動をおこなっています。GEN は 2015 年からゆりりん愛護会に協力し、ツアーを派遣して植樹するなど、海岸林の再生活動に参加しています。

今年は 3 年ぶりのツアーを計画しています。植樹は完了しているため、今回の作業は除草など維持管理のお手伝いになります。まちかど公共研究所主宰の工藤寛之さんの案内で被災地見学もおこないます。

日程	2022 年 9 月 3 日（土）、4 日（日）
内容	1 日目：被災地見学、2 日目：植樹現場視察・作業
参加費	14,900 円（宿泊、レンタカー、保険料を含む。昼食、夕食は含まない）
定員	8 名
申込・問合せ	8 月 9 日（火）までに GEN 事務所まで

～ 開催記録 ～

参加人数	新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
------	---------------------

GEN なんでも勉強会オンライン

京大芦生研究林における二ホンジカによる生態系改変と 保全・回復への試み

～ 開催要項 ～

京大芦生研究林は近畿地方ではとても貴重なアシウスギとブナを中心とした原生的な森で、多くの研究がおこなわれているほか、自然愛好家にも親しまれていますが、90年代後半からシカの食害による植生の衰退が大きな問題となっています。

今回、森林生態学を専門として樹木の成長や繁殖、種多様性、物質生産、シカの食害からの生態系の回復に関し、フィールドワークと広域多地点データ解析を通じて研究を続けておられる石原正恵さんにお話しいただきます。

日時	2022年8月27日（土）13時～15時
場所	ウェブ会議システム Zoom
講師	石原正恵さん（京都大学フィールド科学教育研究センター准教授）
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	20名
------	-----



100年の歴史をもつ芦生研究林。大学の研究林という特性を生かして、植物、動物、水質、土壌などさまざまな研究がなされています。シカによる生態系の改変が進むと、元の生態系を回復できないレジームシフト（代替安定状態）が起こるという話には危機感を感じました。また、原生林を守るためには地元との連携がかかせず、シカの駆除や、山の恵みを生かした製品の生産、販売などさまざまな協力がなされていることも勉強になりました。環境保全活動に取り組む中でシカに悩んでおられる参加者の方

も多く、芦生研究林の実践は参考にさせていただけたことと思います。

GEN なんでも勉強会オンライン

GEN の活動と山の応答 -中国 黄土高原を見て-

～ 開催要項 ～

GEN の活動の大きな特徴として、専門家の参加があります。これまで現地に専門家を派遣して技術指導や人材育成をおこなってきました。

元日本森林学会会長の桜井尚武先生もそのひとりで、大同に何度も足を運び、GEN の活動を支援していただきました。

今回、GEN の活動の意義、とりわけ生物多様性、森林再生などについて語っていただきます。

日時	2022年7月6日(水) 19時～20時35分
場所	ウェブ会議システム Zoom
講師	桜井尚武さん(元日本森林学会会長・元森林総研理事・GEN 顧問)
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	20名
------	-----



霊丘自然植物園へ行く道と植物園の植生1



GEN 顧問の桜井先生のお話は、ちょっと GEN の活動を持ち上げすぎ(?) のところもありましたが、カササギの森でのマツの枯死の例も取り上げられ、うまくいったことばかりではないこともわかりました。南天門自然植物園(霊丘自然植物園)は、やはり森林の専門家にも魅力的な場所のようで、GEN 独自の取り組みが評価されました。

森林再生は、土壌や土壌生物の再生でもあり、また苗づくりや苗の保護などの技術、地域の社会条件、自然条件を理解した上での緑化の重要性、など、さまざまな角度からのアプローチが必要で、GEN の大同での試行錯誤はまさにその具体化であったと再認識しました。

GEN 第 28 回総会記念講演

地域の多様性から考える SDGs・ポスト SDGs 時代の環境共生

～ 開催要項 ～

気候変動、生態系の破壊、自然災害…、これらについて考える際、自然現象への理解が重要なことはいままでもありません。しかしそれ以上に、市井の人々の知恵や営みといった人間圏の多様性の価値が、いま見直されています。なぜなら、住民生活への浅い理解に基づく不適切な開発政策、技術移転、環境保護が引き起こす諸課題に、世界は直面してきたからです。

21 世紀に入り、文化の多様性や、生態系と文化の育み合いが注目されるようになりました。以上を踏まえた「地域多様性」の概念は、大地と生物の多様性に人間圏の多様性を組み合わせたもので、地球環境に関わる複雑な課題を総合的に捉えることに役立ちます。では、黄土高原とアジアの魅力、草の根活動の価値は、どう評価できるのでしょうか？

緑の地球ネットワーク (GEN) が活動を始めた 1992 年生まれの若手地理学者が、地域多様性と SDGs の視点から、皆さまと GEN のこれまでの 30 年を振り返りつつ、これからの環境共生と GEN の次の 30 年を考えます。

日時	2022 年 6 月 11 日 (土) 13 時 30 分～15 時
場所	大阪産業創造館 5 階研修室 A・B/ウェブ会議システム Zoom 併用
講師	原裕太さん (東北大学災害科学国際研究所助教・GEN 世話人)
参加費	無料
定員	会場 40 名/オンライン 100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	41 名
------	------

SDGs の主に環境面の課題を中心に、地球環境の危機的な現状と未来予想図が提示されました。



課題に取り組むさまざまな動き、私たちにできることの提示にくわえ、地域に伝わる伝統知の活用などが提案されました。

講演後の QA では、「地球環境問題において人間は加害者でもあり被害者でもある、そこにジレンマを感じる」「人間はいずれは絶滅するのだが、いい絶滅の仕方と悪い絶滅の仕方がある。いい絶滅を目指したい」といった刺激的な意見をいただきました。

GEN なんでも勉強会オンライン

和泉葛城山のブナ林を知っていますか？ -希少な太平洋型ブナ林の生態と保護増殖-

～ 開催要項 ～

国の天然記念物に指定されている和泉葛城山のブナ林は希少な太平洋側のブナ林ですが、どんな特徴があるか知っていますか。和泉葛城山のブナ林の保護増殖に 30 年以上関わっておられる前中久行さんに、その歴史、生態、保護増殖についてお話しいただきます。

日時	2022 年 5 月 31 日 (火) 19 時～20 時 30 分ごろ
場所	ウェブ会議システム Zoom
講師	前中久行さん (和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会委員・GEN 代表)
参加費	無料
定員	定員 100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	35 名
------	------



和泉葛城山のブナ林は、太平洋側の、しかも標高が比較的低い位置に分布し、ブナ分布の南限圏に近い場所で純林が存在することに大きな価値があるとして、1923 年に国の天然記念物に指定されました。その後開発や気候変動などさまざまな要因が重なりブナ林存続が危惧されるようになり、前中先生も保護増殖の活動に 30 年以上かかわっておられます。

今回は毎木調査や、バッファゾーンをブナ林へ転換する取り組みなど、写真を交えてご紹介いただきました。長い期間をかけて見

守っていくことの大切さを教えていただきました。

GEN なんでも勉強会オンライン

復興の眺めと痛み～東日本大震災から 11 年

～ 開催要項 ～

23 年前に仙台に移住し、日々東北の風景写真を撮りためていた工藤寛之さん。震災後も風景写真の撮影を続けています。

GEN の東北海岸林再生ツアーでは被災地見学の案内役として被災前の写真とともに風景の変遷を紹介していただき、好評でした。

コロナ禍でツアーを派遣することができませんが、震災から 11 年の月日が流れた仙台とオンラインでつなぎ、被災前後の定点観測写真とともに東北の今をお伝えいただきます。

日時	2022 年 4 月 6 日 (水) 19 時～21 時ごろ
場所	ウェブ会議システム Zoom
講師	工藤寛之さん (「まちかど公共研究所」主宰)
参加費	無料
定員	定員 100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	16 名
------	------

仙台とオンラインでつなぎ、工藤寛之さん (まちかど公共研究所主宰) に震災から 11 年経った東北のお話をお伺いしました。



2010 年の被災当時のようすや、平たんではない道のりを少しずつ時間をかけて進んだ復興のようすや海岸が変化していったようすなど、工藤さんご自身が撮影した写真を見せていただきながらご紹介いただきました。

被災前と後の景色を同じ場所から撮影した写真を 2 枚並べて比較することで、かつてあった風景が震災を経てどう変遷していったかを理解することができました。